

〔續日本紀三十一〕神護景雲三年十月甲辰、讚岐國香川郡人秦勝、倉下等五十二人、賜姓秦原公。

〔續日本紀二十七〕天平神護二年二月乙卯、右京人外從五位下桑原村主、足床、大和國人、少初位上桑

原村主岡麻呂等四十人、賜姓桑原公。

〔日本書紀二十五〕大化二年正月甲子朔、宣改新之詔曰、其一曰、罷昔在天皇等所立子代之民處々屯

倉及別、臣、連、伴造、國造、村首、所有部曲之民、處々田莊、仍賜食封大夫以上、各有差降。

〔日本書紀二十五〕大化二年二月戊申、詔曰、明神御宇日本倭類聚國無倭字根子天皇、詔於集侍卿等臣連

國造、伴造及諸百姓略。

〔續日本紀文武〕大寶二年二月庚戌、是日爲班大幣、馳驛追諸國國造等入京、四月庚戌、詔定諸國

造之氏、其各具國造記。

〔氏族考上〕大寶二年二月庚戌に、爲班大幣、馳驛追諸國國造等入京とあるは、神祭の事のみ、の如

思はるれど、四月庚戌、詔定諸國國造之氏、其各具國造記と云る、國造の氏を定むるをも兼たり

と聞え、九月乙丑に詔して、忌寸以上のいまだ氏上を定めざる氏人を申さしむ註とあるど

もを思ふに、此時國造の氏を定め、諸國の氏上を定めたりしなり。

〔續日本紀三十一〕寶龜二年二月丙申、因幡國高草采女從五位下國造淨成女等七人、賜姓因幡國造、

〔續修東大寺正倉院文書四〕御野國味蜂間郡春部里大寶二年戶籍

上政戶國造族石足戶口十三略 中 中政戶國造族豐嶋戶口廿九略 中

伍保中政戶國造族與利戶口十九略 中 上政戶國造族加良安戶口五十一略 中

上政戶國造族稻麻呂戶口十九略 中 上政戶國造族文得戶口廿六略 中

上政戶務從七位上國造族甥戶口卅一略 下

〔姓名錄抄ミヤツク〕造

造

國造

別